

科学するよろこびとたのしさを 金沢子ども科学財団だより

巻頭挨拶

(公財)金沢子ども科学財団 理事長 山崎 光悦



「子どもたちの科学に対する知的好奇心や、独創的で柔軟な発想を育むための環境を提供する」ことを目的として平成12年12月に設立された金沢子ども科学財団は、早いもので今年設立20周年を迎えました。

これもひとえに講師をお引き受けいただいた各小中学校、高等学校、高等専門学校並びに大学の諸先生方、産業界並びに経済界の皆様方、講師や補助員としてご協力いただいた大学生並びに大学院生の皆様、さらには金沢市及び金沢市教育委員会のご尽力の賜ものと感謝申し上げます。また、当財団事業に参加してくれた大勢の子どもたち、そして関係の保護者の皆様のご理解とご協力のお陰様と改めて感謝申し上げます次第です。

この「20周年特別号」は、公益財団法人となった平成23年度から令和2年度までの10年間の変遷を

まとめたものです。設立からの最初の10年を経て金沢市教育委員会から引き継いだ事業も含め、学年・年齢に合わせた各種の講座を次々と開設し、その後の10年間では、未就学年長児から中学生までを対象に事業の内容を充実・発展させることができました。そのお陰もあって当財団の活動が徐々に市民に知られるようになり、毎年8,000人以上の多くの子どもたちが参加してくれるようになりました。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により基礎研究や研究開発の大切さが改めて注目されるようになりましたが、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナ時代となる次の10年間も引続き、日々創意と工夫によって科学の進展に貢献する“科学好きな子どもたち”を一人でも多く増やしていけるよう、子どもたちの目線に立った講座や事業運営を展開して参ります。

今後とも皆様のご支援並びにご鞭撻をお願いして、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

祝 辞

金沢市教育委員会 教育長 野口 弘



金沢子ども科学財団設立20周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。また、これまで財団活動にご支援・ご協力をいただきました小中学校、高等学校及び大学の先生方、そして財団運営を支えてこられた関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

金沢子ども科学財団が実施する子ども科学スタジオは累計参加者数が5万人を達成し、財団と同時期に開校した中学校サイエンスクラブも20周年を迎えています。昨年度には新たにオープンした金沢市長

土塀青少年交流センターに各種事業を集約し、就学前のお子さんから中学生までが同じ場所で学べる環境が整い、週末には多くの子どもたちが楽しそうに科学や算数・数学を学ぶ姿が見られることは、大変喜ばしいことです。

今、学校における教育環境は大きな変換期を迎えており、金沢市でも児童生徒に1人1台の学習用端末を整備し、より個に応じた教育に取り組んでいくこととなります。

これからも、金沢の子供たち一人一人が、金沢子ども科学財団を通じて科学への好奇心を培い世界に羽ばたく科学者として成長してくれることを期待します。

財団の沿革

私たちのまち金沢は、かつてアドレナリンを発見した高峰譲吉博士や天文学者の木村栄博士など、世界に通じる偉大な科学者を生みました。しかし、近年、子どもたちが直接自然にふれたり、実験を楽しんだりする機会が少なくなっていると言われており、このままでは、これまで培われてきた金沢の科学的土壌が失われてしまうことにもなりかねません。そこで、子どもたちの科学に対する知的好奇心や、独創的で柔軟な発想を育むための環境を提供することを目的に平成12年に「金沢子ども科学財団」は誕生しました。

平成23年度には公益財団法人に認可され、地域の教育機関を始め幅広い皆様のご協力のもと、児童生徒の課外における科学的な活動を支援し発展させる様々な事業を展開してきました。

10年のあゆみ（平成23年～令和2年（2011～2020））

【平成23年度】

4月1日 石川県教育委員会より公益法人認可

【平成24年度】

1月26日 子ども科学スタジオ 利用者2万人達成

【平成25年度】

3月31日 理事長 中村 信一 退任

【平成26年度】

4月1日 理事長 山崎 光悦 就任

6月19日 児童科学教室活動50周年

【平成27年度】

5月16日 子ども科学スタジオ 利用者3万人達成

8月30日 SGH（スーパーグローバルハイスクール）事業開始

11月18日 ウェンヤ小学校（台湾）との交流開始

2月6日 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業開始

【平成28年度】

8月12日 子ども科学スタジオ 10周年記念事業①

18日 子ども科学スタジオ 10周年記念事業②

【平成29年度】

5月13日 子ども科学スタジオ 活動場所を広坂から旧菓子文化会館（尾張町）へ仮移転

7月15日 子ども科学スタジオ 利用者4万人達成

【令和元年度】

6月23日 WWL（ワールドワイドラーニング）事業開始

27日 財団活動拠点場所を西町教育研修館から長土堀青少年交流センターへ移転

8月22日 長土堀青少年交流センターオープン記念事業①

28日 長土堀青少年交流センターオープン記念事業②

12月14日 子ども科学スタジオ 利用者5万人達成

2月22日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業中止

【令和2年度】

6月20日 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を施し事業再開

7月15日 中学校サイエンスクラブ活動20周年

8月1日 Webによる参加申込を開始、電子教材や活動の動画を掲載

29日 算数チャレンジオンライン特別講座（講師：井本陽久氏）開始

2月2日 財団ホームページを改訂

主な事業（対象年齢順）

事業名	対象	開催回数	受講型	事業名	対象	開催回数	受講型
子ども科学スタジオ	年長児～小学2年と保護者	45	単発	ジュニア科学者養成講座（中期）	小学3年～中学3年	8	期間
オープンスクール	保育園～小学校	2	単発	おもしろ野外活動、里山の自然	小学3年～中学3年	4	単発
出前科学スクール	保育園～小学校	50	単発	おもしろ野外活動、足もとから地球のでき方を探ろう	小学4年～中学3年	2	単発
おもしろ実験・観察教室	小学3・4年	各12	単発	おもしろ実験・観察教室	小学5年～中学3年	10	単発
おもしろ算数チャレンジ教室	小学3・4年	各2	単発	算数・数学オリンピック支援講座	小学5年～中学3年	11	年間
児童科学教室	小学5・6年	各18	年間	大学・企業等との交流事業	小学5年～中学3年	4	単発
算数チャレンジクラブ	小学5・6年	各12	年間	算数・数学思考力検定	小学5年～中学3年	2	単発
児童生徒科学研究作品展、表彰式	小学1年～中学3年	1	期間	算数オリンピックトライアル	小学5年～中学3年	1	単発
科学研究口頭発表会	小学1年～中学3年	1	単発	中学校サイエンスクラブ	中学1年～3年	10	年間
出張科学相談	小学1年～中学3年	8	単発	数学チャレンジクラブ	中学1年～3年	12	年間
ジュニア科学者養成講座（長期）	小学3年～中学3年	14	期間	SSH（スーパーサイエンスハイスクール）教室	中学1年～3年	1	単発

児童科学教室

児童科学教室は、昭和40年に当時の野町小学校（現 泉小学校）と瓢箪町小学校（現 明成小学校）の両校に金沢市理科センターが設置され、市内小学校5年生の中から理科に興味を持つ児童を集めて、科学的な態度・能力の向上を図ることを目的に、開設されました。

昭和54年に新たに長町小学校（現 中央小学校）にも開設され、その後、金沢市内の小学校の統廃合に伴い、現在は泉、中央、明成の3教室で活動が行われており、55期生まで6,015名の修了生を送り出しています。

活動の概要

教室生は例年1月に、市内全小学校4年生を対象に募集を行い、5年生、6年生の2年間を通して原則第1・第3土曜日の午前に活動しています。指導には金沢市近郊の小学校に勤務する、理科に堪能な教員や大学生（大学院生を含む）のボランティアがあたっています。

5年生は基礎的な技能を習得するための基礎実験を、6年生は数人のグループで年間を通して自由研究に取り組みます。6年生の自由研究は9月の中間検討会を経て、年度末の教室別成果発表会に臨みます。活動の最終日は3教室合同での修了式及び各教室代表による成果発表会を行っています。



教室別成果発表会の様子



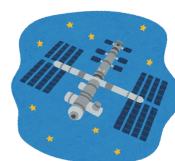
5年生活動の様子

その他、5年生は野外実習を6年生は臨海実習を行い、自然の中での活動に取り組みます。また、児童の研究内容を毎年「自由研究のあゆみ」として編集・発行しています。

平成23年～令和2年の主な出来事

【平成26年度】

- 児童科学教室50周年を迎え、50周年記念誌を発行。
- 金沢市立泉小学校の開校により野町教室から泉教室になる。



教室生の声

- 臨海実習の魚の解剖や海藻標本作り、星の観察などを通して「科学の視野」が大幅に広がった。また、仲間との絆も深まり、とても良い経験になった。
- グループでの自由研究がとても楽しかった。素朴な疑問から疑問を持ち、実験し話し合い、次の実験に活かす、の繰り返しで最後まで研究をやり通せて良かったです。



児童科学教室 10年間の活動実績

区 分	平成 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度※
5 年 生	125人	103人	99人	106人	85人	87人	109人	97人	101人	89人
6 年 生	116人	119人	99人	95人	97人	84人	84人	101人	94人	98人
指 導 員	45人	44人	40人	38人	34人	33人	35人	37人	35人	33人
学生ボランティア	12人	15人	12人	11人	12人	11人	12人	12人	8人	6人

※令和3年1月30日現在の数字

中学校サイエンスクラブ

科学に興味や関心を持つ金沢市の中学生に対して、「観察・実験、探究活動など体験的学習を通して、科学的なものの見方・考え方などの豊かな科学的素養を育成すること」を目的として平成12年に中学校サイエンスクラブが設立され、金沢市立小將町中学校を拠点に活動しています。



活動の概要

本クラブの活動は年間10日予定されており、原則、毎月一回土曜日の午後、いろいろな実験・観察や自由研究などの探究活動を行っています。

夏や秋には、バスを利用して野外でしかできないような内容の学習活動をしています。また、高校や大学の先生を講師にお招きしたり、大学の実験室で実験や実習をしたりするなど、日頃学校ではできないことを積極的に取り組んでいます。

例年、30から40名の中学生がクラブ員になっており、1年生が多く参加しています。中には部活動と両立させながら3年間所属する生徒もあり、科学研究や高峰賞で素晴らしい成果を上げている子も少なくありません。



糸魚川－静岡構造線の露頭で

令和元年度の5、6、11、1、2月の5回は、拠点校で中学校の先生が担当していろいろな分野の実験を行いました。7月には自由研究と発表会、8月末と11月初めには北陸大学や金沢工業大学で専門性の高い内容の講義と実験を行いました。また、8月には新潟県糸魚川のフォッサマグナパーク見学と宮崎海岸でのヒスイ採集、11月には犀川上流の大桑層で化石採集などの野外実習を行いました。

令和2年度は、サイエンスクラブ設立20周年記念として、金沢大学の先生を講師としてお招きして岐阜県の「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」へ行く予定でしたが、感染症拡大防止のため10月からの3回のみ拠点校にて活動しました。

生徒の声

- 「フォッサマグナパークに行き、今後の理科や社会につながる貴重な体験ができ、とても楽しかったです」（8月県外研修より）
- 「混ぜただけで色が変わってびっくりした」（5月「物質が化ける様子」より）
- 「濃度を濃くしていくことで、小腸の収縮がどんどん増していく姿が興味深かった」「腸が動いているのが生で見られてよかった」（8月「腸の動きと薬の作用」より）



中学校サイエンスクラブ 10年間の活動実績

区 分	平成 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度※
1 年 生	18人	9人	14人	22人	10人	12人	17人	17人	22人	11人
2 年 生	11人	13人	11人	9人	20人	8人	11人	16人	11人	16人
3 年 生	9人	11人	12人	4人	3人	7人	9人	2人	5人	2人
指 導 員	24人	22人	20人	23人	21人	21人	18人	15人	18人	19人
学生ボランティア	7人	7人	8人	7人	6人	5人	8人	6人	4人	0人

※令和3年1月30日現在の数字

算数・数学チャレンジクラブ

算数・数学に興味や関心を持つ小学5・6年生、中学1・2・3年生を対象とし、学校の授業では味わえないユニークな学習を通して、算数・数学の知識や技能だけでなく、「考える力」や「創造力」「独創性」の基礎を培うことをねらい、将来の科学・技術を担う人材の育成をめざしています。

活動の概要

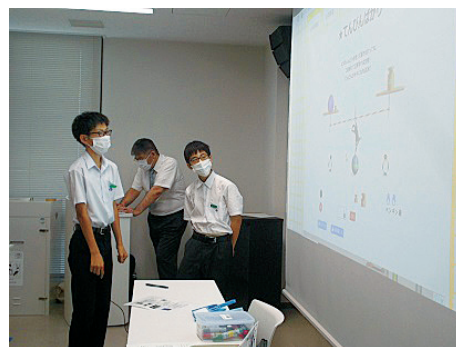
講座は各学年、年間12回で、算数は土曜日、数学は日曜日の午前に開催されています。

学習内容については、年度末にカリキュラム検討委員会を開催し、領域の配分や各講座のねらいなどについて吟味しています。算数・数学本来のおもしろさを味わわせ、その魅力に気付かせようと多様な工夫が見られます。



歩いた軌跡をグラフに変換

例えば、右と左のアームが、あと何gで釣り合うかを考える天秤問題をスクリーンに映して考えさせたり（写真右）、自分の歩いた軌跡をグラフに表して特徴をつかませたり（写真左）、難しい内容を楽しく分かりやすく理解できるように指導過程や教材を工夫しています。



天秤問題

その他に、年1回著名な数学者や数学教師などを講師とする特別講座を夏休み期間中に開催しています。

平成23年～令和2年の主な特別講座

- 5年生：立体 6年生：立方体・正八面体
- 美の幾何学－図形の美しさ・不思議さ－
- 変わり方－星形魔方阵・円周上の点の数
- 切って貼って算数・数学力
- 自分で考えることが楽しくなる講座

- 講師：中村 光一 東京学芸大学教授
- 講師：矢嶋 昭雄 東京学芸大学准教授
- 講師：高橋 等 上越教育大学准教授
- 講師：坪田 耕三 青山学院大学教授
- 講師：井本 陽久 いもいも塾主宰



講師の声

令和2年度はコロナ禍の折にもかかわらず、参加したクラブ員は遅刻もなく、静かに着席して待ち、講座が始まると目を輝かせて取り組み、声の大きさに配慮しながらも積極的に挙手発表するという熱い態度にととても感心・感動しました。

算数・数学チャレンジクラブ 10年間の活動実績（指導補助は延べ人数）

区分	平成23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度※
5年生	98人	85人	91人	85人	89人	100人	90人	81人	87人	69人
6年生	79人	84人	72人	77人	79人	84人	84人	80人	77人	72人
1年生	22人	32人	49人	40人	28人	43人	38人	38人	38人	39人
2年生	15人	17人	30人	37人	28人	31人	38人	28人	28人	25人
3年生	13人	12人	11人	19人	34人	18人	30人	32人	21人	17人
講師	57人	62人	69人	61人	57人	53人	53人	38人	38人	40人
指導補助	102人	104人	119人	100人	119人	126人	126人	104人	93人	33人

※令和3年1月30日現在の数字

算数・数学オリンピック支援講座

金沢が輩出した数学者・関口 開に続くような、算数・数学を身に付けた人材を育てることを目標に、主に算数・数学チャレンジクラブのクラブ員から、もっと難しい算数・数学に挑戦したいという希望者を募っています。



活動の概要

支援講座は、年間11回、日曜日の午前で開催しており、大学教授、小・中・高の教員、大学院生、学生の指導の下、過去の算数オリンピックの問題を中心にハイレベルな学習に取り組んでいます。（写真右左）講座開設以来、高い意識を持ったクラブ員に



活動の様子

より、地方大会であるトライアルに毎年数名の児童・生徒が合格し、全国大会であるファイナルへ進出して

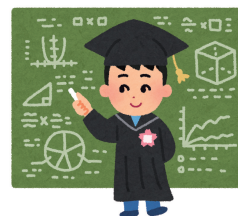


活動の様子

います。平成24年度にはファイナルでの入賞者が1名出ています。また、令和2年度においては、コロナ禍のためトライアルは個人受検、ファイナルは中止になりましたが、少人数の同一学年児童・生徒で編成し、個々の実態に対応できる学習を強化することで、クラブ員のレベルが向上し更なるファイナル入賞者が生まれることを期待しています。

平成23年～令和2年の主な出来事

- 各支援講座では、毎年算数オリンピック検定問題に挑戦しています。
- 算数オリンピックトライアル（地方大会）では、各学年と個人のレベルに合わせて、「ジュニア算数オリンピック（主に小学5年）」「算数オリンピック（主に小学6年）」「ジュニア広中杯（主に中学1年と中学2年）」「広中杯（主に中学3年）」の問題に挑戦してきました。



講師の声

オリンピック検定の問題は非常に難しく、厳しい試練の一つになります。これまでに培った力を発揮し、粘り強く取り組んだ勇気と努力をたたえたいと思います。問題には系統性が見られますので、継続受験をして今の自分だけにとらわれず、次年度につなげることが大切です。今の経験をばねにして、今後に生かして頑張りましょう。

算数・数学オリンピック支援講座 10年間の活動実績

区 分	平成 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度※
5 年 生	31人	23人	20人	28人	40人	28人	23人	22人	24人	10人
6 年 生	16人	23人	19人	15人	24人	33人	24人	16人	18人	13人
1 年 生	8人	7人	18人	12人	8人	16人	19人	10人	8人	15人
2 年 生	6人	9人	6人	17人	8人	12人	13人	13人	13人	7人
3 年 生	5人	3人	5人	4人	13人	8人	7人	10人	9人	6人
講 師	20人	14人	14人	11人	16人	12人	12人	12人	12人	10人

※令和3年1月30日現在の数字

おもしろ実験・観察教室

財団設立当時の看板事業の一つで、一般公募の小学3年生～中学生の子ども達を対象に、大学教授、大学生、小・中・高校の教員などの指導の下、科学実験・観察の楽しさやおどろき、よろこびを体験する場を提供してきました。毎回定員を超える応募があり、活動日には子ども達の熱心に学ぶ姿を見ることができます。



活動の概要

おもしろ実験・観察教室は毎月1回開催し、年間12回実施しています。主に土曜日に開催しており、3年生教室と4年生教室は同日開催とし、5年生から中学生までの教室は別の土曜日に開催しています。また、応募者が多い場合は、午前と午後の2回開催し、すべての子ども達の興味や関心に応えられるようにしています。活動は主に財団の物理・地学実験室と生物・化学実験室で実施しており、内容によっては金沢大学周辺の里山や近隣の河川や野原などの野外にも活動の場を広げ、物理・化学・生物・地学分野を広く学べるように工夫しています。近年は、科学・技術や環境問題に関わる内容のものも取り上げています。



化学実験の様子

また、春夏秋冬の季節に応じて「おもしろ野外活動 角間の里山自然探検」を開催し、小学3年生から中学生までの子ども達が「金沢大学創立50周年記念館『角間の里』」を拠点とし、その周辺の里山で生物の観察や採集、木の実を使った工作など四季を満喫できる活動を行っています。

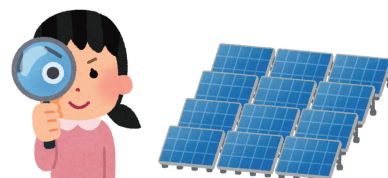


角間の里山自然探検(秋)の様子

その他、白山手取川ジオパークや手取層に出かけて化石を採取する講座も人気です。令和2年度は、感染症拡大防止のため、募集人数を半分に削減し、教室の換気を行うなど、子ども達の安全安心に配慮した上で7月から活動を開始しました。バスでの移動や昼食をとっての1日の活動は実施できませんでしたが、内容を工夫したり精選したりするなど、子ども達の科学への関心に応えてきました。

子ども達の声

- 「放射線が目に見えてびっくりした」(7月教室「放射線って何？」から)
- 「太陽光パネルを使って何か別のものを作りたい」
(8月教室「電気の源を探る」から)
- 「小松菜がバリバリになってびっくりした」
(9月教室「極低温(-196℃)の世界を体験しよう」から)



おもしろ実験・観察教室 10年間の活動実績 (交流事業含む。学生ボランティアは延べ人数)

区分	平成23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度※
参加者	1,074人	920人	1,166人	1,162人	1,074人	1,043人	812人	760人	668人	310人
講師	48人	55人	60人	96人	88人	91人	91人	80人	72人	42人
学生ボランティア	88人	80人	129人	153人	126人	151人	123人	92人	70人	42人

※令和3年1月30日現在の数字

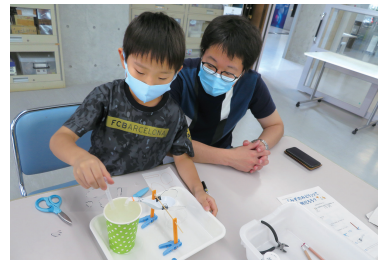
子ども科学スタジオ

金沢市内の未就学の年長児から小学1・2年生の児童とその保護者を対象に、金沢市長土塀青少年交流センター1階の交流活動室において、毎回異なる内容の科学実験や自然観察を、毎週土曜日の午前と午後の2回実施しています。

活動の概要

身近にある物を利用したものづくりや、それを使った科学遊びや科学的な内容についての実験などのほか、野外での自然観察会も行います。

内容としては、音・光・空気・水・力・化学変化・電気などによる身の回りの現象や、動植物・化石・宇宙などをテーマとした、いろいろな実験や観察を行っています。これらを通して、親子で科学や自然のおもしろさ・不思議さを感じ、親しみを持ってほしいと願っています。



水飲み鳥ってなんだ



秋の木の実をさがそう

平成23年～令和2年の主な出来事

- 24年1月26日 子ども科学スタジオ累計参加者数2万人達成セレモニー開催
- 27年5月16日 子ども科学スタジオ累計参加者数3万人達成セレモニー開催
- 28年8月12日 子ども科学スタジオ 10周年記念・オープンスタジオ①開催
- 28年8月18日 子ども科学スタジオ 10周年記念・オープンスタジオ②開催
- 29年7月15日 子ども科学スタジオ累計参加者数4万人達成セレモニー開催
- 元年12月14日 子ども科学スタジオ累計参加者数5万人達成セレモニー開催
- 2年8月1日 参加方法を事前申込制に変更(財団ホームページからの申込)



5万人達成セレモニー

参加者の声

- だいこんやにんじんで紙ができるのは知らなかったのですごくびっくりしました。また、アイロンやすりばちはつかったことがなくて、きんちょうしたけど、できてうれしかったです。(「野菜紙をつくってみよう」より)

保護者の声

- 子どもがなにを不思議に感じ、どう思ったかを伝えてきてくれ、楽しく学べました。
- すごく楽しかったようです。親ももちろん勉強になりました。先生のお話面白く楽しかったとのこと。
- 丁寧に説明していただき、わかりやすかったです。また参加したいと思いました。

子ども科学スタジオ 10年間の活動実績 (28年度は10周年記念オープンスタジオ含む)

区 分	平成23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度※
実施回数	45回	45回	45回	45回	46回	46回	42回	45回	37回	28回
参加者	3,214人	3,905人	4,515人	4,085人	4,507人	4,634人	4,509人	3,861人	4,022人	1,552人
講師	27人	46人	46人	45人	46人	39人	40人	40人	58人	40人
学生ボランティア	51人	33人	33人	35人	39人	42人	49人	49人	36人	28人

子ども科学スタジオ・オープンスクール 10年間の活動実績 (年長児～小学生)

区 分	平成23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度※
実施回数	8回	4回	7回	8回	8回	7回	3回	2回	3回	2回
参加者	206人	89人	122人	186人	203人	143人	56人	39人	72人	46人

※令和3年1月30日現在の数字

出前科学スクール

金沢市内の保育園や幼稚園、小学校の育友会、児童館などいろいろな団体からの要望を受けて、それぞれの施設に財団から実験道具等を持ち込んで、子どもやその保護者の方に様々な実験や工作を体験してもらう事業です。



活動の概要

平成22年度から「出前科学スクール」としてスタートし、年間約50回近い要望に応じています。さらに、年々口コミで広がっており、開催回数も増えてきています。

近年は、対象団体を絞らざるを得ない状況もあり、一定の見直しを図りました。一方で、その対象年齢に応じたメニューの開発や教材の工夫と改善を行ってきました。いくつかの保育園や幼稚園からは年度当初に計画的に依頼が寄せられるようになり、科学の楽しさが幼児教育に組み込まれていることが伺えます。



仲良く力を合わせて製作

各種団体からいただいた声

A こども園の感想から

磁石を使ってクリップをくっつけたり製作したりと楽しんだことで、磁石に対しての興味を持つことができました。「冷たいものがくっつくかも」「なんでこれはくっつかないの？」などとそれぞれに考える姿や、磁石につくところを探し発見できたことを喜ぶ姿が見られ、良い経験になりました。



スライムづくり

B 保育園の感想から

水やノリなどの液体を自分で計量し混ぜていく中でどんどん固まっていくことに子ども達は目を輝かせていました。子ども達が主体的に参加していて大変嬉しく思いました。とてもおもしろく子ども達の興味を引く活動でした。ぜひまた教室をお願いしたいと思います。

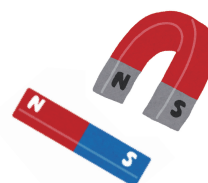


C こども園の感想から

先生の実験を驚いたり笑ったりして集中してみていたので、とても楽しく参加できたと思います。製作は少し難しいように感じましたが、お友達と協力して難しい作業をすることができ、よい体験になりました。

D こども園の感想から

1時間があっという間で大人も楽しめました。スモークなどの機械が出てきて、特別なイベントだからこそ体験できる嬉しさもありました。



出前科学スクール 10年間の活動実績

区 分	平成23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度※
実施回数	103回	57回	73回	81回	67回	65回	56回	51回	51回	19回
参加者	3,663人	2,242人	2,698人	2,835人	2,510人	2,286人	2,604人	3,046人	2,492人	498人

※令和3年1月30日現在の数字

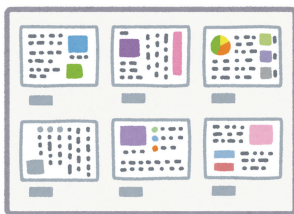
金沢市小・中学校児童生徒科学研究作品展及び表彰式

平成12年の財団設立後、金沢市教育委員会から科学研究作品展を引き継ぎ、毎年開催しています。

「児童・生徒の自然や科学に対する関心を高め、科学的な研究方法によって課題を追究しようとする探求心を養うとともに、創造的能力や豊かな感受性の育成を図る」を趣旨に、金沢市内全小中学校から作品を募集しています。作品は児童・生徒の発想に基づき個人又は共同で研究したもので、単なる技術的な工作物は除いています。

活動の概要

9月上旬に各学校から選抜された作品が財団に届けられます。毎年、小中併せて1,000点ほどの作品が集まります。その後、市内の小中学校と大学の先生方で全作品の審査を行い、小学校30点程度、中学校15点程度の優秀賞を選び、「石川県児童・生徒科学作品コンクール」に出品します。例年、金沢市からの作品は高い評価を得ており、特別賞や優秀賞の過半数を占めています。さらに石川県代表として全国の作品展に出品され、入賞することも多くあります。



優秀賞、優良賞、佳良賞などの作品は、毎年11月中旬から10日間ほど、県の優秀作品と同時に展示を行い、期間中に2,000名ほどの観覧者があります。また優秀賞と学校賞受賞者を称える表彰式も開催しています。



科学研究作品展



科学研究作品表彰式

平成23年～令和2年の主な出来事

- 令和元年度の財団の移転に伴い、科学研究作品展・表彰式の会場を旧玉川こども図書館から長土堀青少年交流センターに変更。

観覧者の声

- 自分の研究に活かせるような発想を学ぶことができ、面白かった。
- 研究のタイトル、内容の多様さに毎年驚かされる。
- クオリティーが高く、指導の専門性や児童生徒の努力は称賛に値すると思う。



金沢市小・中学校児童生徒科学研究作品展 10年間の応募・受賞件数

		平成23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度※
科学作品展応募件数	小学生	829	812	820	781	869	854	853	884	835	776
	中学生	198	170	192	179	163	176	175	185	153	114
石川県児童・生徒科学作品コンクール特別賞*	小学生	4 ^{abcd}	3 ^{bcd}	4 ^{abcd}	4 ^{abcd}	3 ^{abc}	4 ^{abcd}	4 ^{abcd}	4 ^{abcd}	2 ^{bc}	3 ^{acd}
	中学生	1 ^c	3 ^{abd}	3 ^{acd}	3 ^{acd}	3 ^{acd}	3 ^{bcd}	2 ^{bc}	3 ^{abd}	4 ^{abcd}	3 ^{bcd}
全国児童才能開発コンテスト**	小学生	4 ^{ejkn}	3 ^{gn}	4 ^{kn}	4 ^{gn}	3 ^{fhn}	4 ^{ein}	4 ^{fgk}	4 ^{ijlm}	2 ⁿ	3 ^{fhm}
日本学生科学賞***	中学生	0	1 ^r	1 ^o	0	1 ^p	0	0	0	1 ^q	0
自然科学観察コンクール（シゼコン）****	小学生	0	0	1 ^x	1 ^t	0	5 ^{uxyz}	5 ^{svxy}	0	3 ^{sxy}	2 ^x
	中学生	0	0	0	1 ^x	1 ^x	1 ^x	0	3 ^{wxy}	0	0

*a県知事賞、b県議会議長賞、c県教育委員会賞、d県科学教育振興会長賞

**e文部科学大臣賞、f全国都道府県教育長協議会会長賞、g全国都道府県教育委員協議会会長賞、h全国連合小学校長会会長賞、i日本PTA全国協議会会長賞、j中央審査会委員長賞、k学研賞、l菅公賞、m才能開発教育研究財団理事長賞、n財団科学賞

***o科学技術政策担当大臣賞、p日本科学未来館賞、q読売理工学院賞、r入選3等

****s文部科学大臣賞、t3等賞、u秋山仁特別賞、vオリンパス特別賞、w継続研究奨励賞、x佳作、y指導奨励賞、z学校奨励賞

※令和3年1月30日現在の数字

ジュニア科学者養成講座 中期・長期

小学3年生から中学3年生を対象に、大学院生や大学生から継続的に研究のアドバイスを受けることによって、児童・生徒の科学研究の能力を養うことを目的としています。

【中期】

本格的に科学研究に取り組みたいが、進め方が分からない等の児童・生徒に対し、一人一人に指導者（大学院生・大学生等）を配置し一連の探究過程を身に付けさせます。

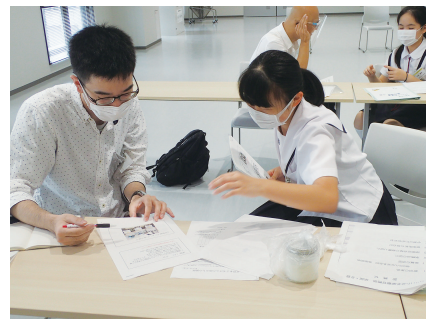
7～8月の夏休みの期間中、3時間を1単位とした8単位分（24時間）を受講時間としています。

県や市の科学研究作品展で優秀な成績を収め、次の段階の長期講座へとステップアップしていく児童・生徒が多くみられます。

【長期】

科学研究に秀でたり、意欲的であったりする児童・生徒を選抜し、全国規模の科学作品コンクールへの入賞を目指し、より専門的な研究手法や思考を身に付けさせます。

5～8月の期間中3時間を1単位とした12単位（36時間）を研究アドバイスとし、2単位（6時間）を科学研究口頭発表会のプレゼンテーション指導としています。過去の受講者も含め研究成果は非常に優れており、全国児童才能開発コンテストや自然科学観察コンクール(シゼコン)等の全国規模の作品展で入賞者を多く輩出しています。また、指導した大学院生・学生の中には、指導者として表彰された方も多くいます。



長期 指導者と相談の様子

ジュニア科学者養成講座 10年間の活動実績

区 分	平成 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度※
中 期	4人	5人	8人	10人	5人	6人	7人	10人	5人	2人
長 期	10人	8人	6人	7人	9人	10人	8人	10人	9人	7人
指 導 者	15人	13人	14人	17人	14人	16人	13人	21人	15人	9人

※令和3年1月30日現在の数字

科学研究口頭発表会

科学研究作品展に併せて、平成14年度から自分の研究を他者へ伝える機会として「科学研究口頭発表会」を開催してきました。大学の先生と大学院生を審査員に招き、最優秀賞を始め参加者全員に、それぞれの研究にふさわしい賞が授与されます。



口頭発表会の様子

科学研究口頭発表会 10年間の活動実績

区 分	平成 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度※
発 表 者	22人	18人	12人	18人	18人	21人	22人	23人	21人	7人

※令和3年1月30日現在の数字

出張科学相談

夏休みの自由研究の相談や指導の依頼のあった学校へ財団職員が出向き、直接児童・生徒を指導する「出張科学相談」事業を平成21年から行っています。

例年6～8校から依頼があり、相談者の人数に応じて、財団職員や相談員が2名以上で学校に出向き、児童・生徒の一人一人に対し、個別に科学研究のアドバイスをします。1つの学校につき、出来るだけ2回出向くようにしており、1回目は「研究テーマの決め方」や「研究の進め方」を指導し、2回目に「結果の見方や考え方」「研究のまとめ方」を指導することで、児童・生徒の一人一人が研究の仕方を学ぶようにしています。

出向いた学校の科学研究作品数が増えたり、指導を受けた児童・生徒が、科学作品展で入賞したりすることが多く見られるようになってきています。



研究計画の相談の様子

交流事業及び特別事業（産業・文化・教育から科学を学んでみよう）

財団では科学やものづくりに興味を持つ子ども達のために、大学や、企業等の実施する社会貢献活動に協力・共同した科学教室等を開催しています。これまでにテクノパーク科学教室などを開催し、多くの方にご参加いただきました。

平成23年度からの10年間に協力いただいた会社・団体は、日機装株式会社金沢製作所、横河電機株式会社金沢事業所、一般社団法人日本自動車連盟（JAF）石川支部、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学、公益財団法人宗桂会、金沢湯涌創作の森、金沢能楽美術館、金沢サテライトプラザ、石川工業高等専門学校、日本アイ・ビー・エム株式会社、金沢湯涌江戸村です。

財団では寄附を募集しております

当財団は、主に金沢市に在住する児童生徒等の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的に、「児童生徒等を対象とした課外での科学に関する活動」、「児童生徒等の科学の心を育てるための普及啓発活動」、「科学に関する諸団体や国内外の児童生徒等との交流活動」を柱とした事業を実施しています。また、これら事業の高い公益性が認められ、「公益財団法人」として、平成23年4月より運営を行っております。

事業に必要な資金は様々な団体からの助成金や事業参加者からいただく参加費、そして財団が所有する限りある基金を取り崩して行っております。教育普及活動は一朝一夕で成果のあがるものではなく、長期にわたり継続していくことでその効果が発揮できるものと認識しております。こうした意義ある事業を今後とも継続発展させ、一人でも多くの子どもたちの科学の芽を育てていくためには、多くの皆様方からの温かいご支援が不可欠と考えております。

なお、公益性の高い団体へ行われる「寄附」はその寄附者に対し、税制上の優遇措置が認められています。財団では、多くの方々からのご支持、ご寄附をいただき、もっと多くの子どもたちに事業へご参加いただける環境づくりのため前進していきたいと考えております。

以上、当財団の事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

金沢子ども科学財団だより

20周年特別号 令和3(2021)年 2月発行

公益財団法人 金沢子ども科学財団

〒920-0865 石川県金沢市長町3丁目3番3号

Tel:(076)221-2061 Fax:(076)221-2062

メールアドレス kodomokagaku-z@kanazawa-city.ed.jp

ホームページ <https://www.kodomokagaku.or.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kodomokagaku>

その他詳しくはお電話で
お問い合わせ、もしくは
財団ホームページをご覧ください。



金沢子ども科学財団 検索

